



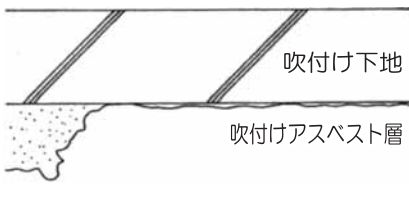



<p>④ 下地とアスベスト層との間の浮き・はがれ</p> <p>アスベスト層の下地への付着力が低下することによって、アスベスト層と下地との間にすき間、はく離がみられるもの</p>	 <p>④下地と層間の浮き・はがれ</p>	
<p>⑤ 層の局部的損傷・欠損</p> <p>人為的、又は経時的変化によって、アスベスト層の表面、層自体の層間・下地間で生じた局部的な凹凸、はく落、はく離</p>	 <p>⑤層の局部的損傷・欠損</p>	
<p>⑥ 層の損傷・欠損</p> <p>人為的、もしくは経時的変化によって生じた施工面のほぼ全面にわたる凹凸、はく落、はく離</p>	 <p>⑥層の損傷・欠損</p>	

出典：既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説
(写真については、P39も参照してください。)

(2) 室内環境測定

石綿含有建材が使用されている場合は、その建材の劣化状況などを点検するほか、定期的に室内の環境測定を行いましょう。

室内環境の基準はありませんが、「大阪府生活環境の保全等に関する条例」における解体時等の敷地境界基準(10本/L以下)やWHOの基準*が定められており、ひとつの目安となります。ただし、室内環境測定の経年比較や石綿含有建材の使用されていない部屋や室外と比較し、以前より石綿濃度が高くなっている場合や他室等よりも濃度が高い場合は、室内濃度や石綿含有建材の劣化状況などを総合的に判断してください。

* WHO(世界保健機関)の環境保健クライテリア(判定基準)

世界の都市部の一般環境中の石綿の濃度は1本～10本/L程度であり、この程度であれば、健康リスクは、検出できないほど低い。